

テーマ「国語の成績が高い子の共通点」

■国語の成績が高い子の共通点を知る意味

特定の教科が得意、成績が高い理由は「勉強をしているから」ということだけではない。かといって、“天性の才”、“センス”があるからということでもない。どちらも「教える側」としては十分な検証にならない

いわゆる「国語ができる子」を多く観察していると、「教える側」にヒントを提供してもらえる。それが、「国語が苦手な子」が国語の成績を高めるためのヒントにもなりえる。今回のセミナーはそのことを念頭に置きながら進行する。

※ただし、古文・漢文の成績は含まず。

■共通点（その3）

日常から語彙の豊富さを感じさせる

ある状況を見聞きして、それを言語化する力が高い。その土台にあるのは豊富な語彙力。内容の要約力が高い。

■共通点（その1）

読書の習慣化が高いレベルでなされている

暇があれば本を読んでいる。ジャンルは小説が多い。「高いレベル」というのは、生活の中に読書が浸透しきっている状態を指す。つまり、国語の成績を上げよう、語彙を増やそうという目的による読書ではなく、もはや本を読んでいると時間をもたないぐらいになっている。これは内発的なことなので、外からどうにかしよとしてもほぼ無理。

■共通点（その4）

国語の授業以外で国語が勉強できている

国語の授業内の御託は必要ではなく、解いた問題の解答合わせになっている。答えを誤ったときには、内容の理解をもう一度確かめる上で、本文の読み直しをする。

■共通点（その2）

テストの問題用紙に傍線を引いていない

模擬試験などの問題用紙の文章に一本も線が引かれていない。そもそも国語が苦手な子と文章の読み方が異なる。（国語の授業で傍線ばかり引かせる指導は、国語ができる子には苦痛以外の何ものでもない。）

■まとめ

共通点の逆が、国語が苦手な子の特徴！

国語が苦手な子を生み出す責任の所在は？

そもそも国語指導は誰が、どのようになされている？

今後、国語の力を伸ばすには？